

建設経済委員会 行政視察調査報告書

- 1 視 察 日 2025年5月19日（月）～21日（水）
- 2 視 察 先 調査事項
- 福岡県豊前市
 - ・短時間ワークシェアリング「おしごとパレット」について
 - ・老朽危険家屋等除却促進事業（空き家対策）について
 - 熊本県玉名市
 - ・「集落における無意識の『えづけ』を止めてわずか1年で被害ゼロを実現」について
 - 福岡県太宰府市
 - ・「歴史的資源を活用した観光まちづくり」について
- 3 視 察 者
- | | |
|---------|---------------|
| 委 員 長 | 米 田 達 也 |
| 副 委 員 長 | 太 田 智 博 |
| 委 員 | 浅 田 徹 |
| 委 員 | 上 田 伴 子 |
| 委 員 | 小 森 弘 詞 |
| 委 員 | 竹 中 理 |
| 委 員 | 田 中 藤一郎 |
| 委 員 | 山 田 貴 久 |
| 当 局 | 浪 華 誠（農林水産課長） |
| 議会事務局 | 船 越 初 美 |



豊前市役所で説明を受ける



豊前市役所前にて



玉名市議場にて



太宰府市役所で説明を受ける

日 時	2025 年 5 月 19 日（月） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分
視 察 先	福岡県豊前市
調査項目	①短時間ワークシェアリング「おしごとパレット」について ②老朽危険家屋等除却促進事業（空き家対策）について
調査内容	①さまざまな挑戦の場（しごと）を用意し、豊前市民が“仕事を通して、活躍できる場”を創出する仕組み「おしごとパレット」を視察した。 仕事の「募集」「紹介」「マッチング」は（一社）豊前生涯活躍地域づくり協議会が担っている。 ②豊前市の老朽危険空家等除却促進事業について視察を行った。特徴として補助率 3 分の 1 上限 30 万円、実績としては 2020 年 20 件をピークとして、5 年間継続。平成 27 年度に制度創設し家屋解体後の土地の固定資産税を最長 10 年間減免されていた。
所 感	①短時間ワークシェアリング「おしごとパレット」 豊前市では、地域創生事業として、「ひとりひとりが主役のまち」を目指した取り組みの一環として短時間でも仕事ができる仕組みをスタートされた。 本市においても、「豊岡市ワークイノベーション戦略」で、女性の就労促進や子育て女性専用のハローワーク設置などを行っているが、市民のやりたいことと企業の求めていることをマッチングする仕組みはない。豊前市では、コーディネーター 2 名体制でまちの潜在労働力（高齢者、障がい者、子育て中の女性、高校生など）を募集し、やりたい仕事を聞き取り、市民の需要に合った仕事内容を企業へ提案し、マッチングし、市民に喜ばれている仕組みは見習うべき事であると感じる。 「地域再生推進法人」の制度を上手に活用され、地域再生事業の担い手として公的位置づけ付けが付与され、随意契約や公有財産の無償貸し付けや市職員の派遣等が可能となる利点が生かされ、市が一般社団法人を立ち上げられた事例は大いに参考になった。ただ、運営上の課題として、市からの補助金等の支援はないので、マッチングによる手数料収入のみであり、資金確保に苦慮されている。また、コーディネーターのうち 1 名は地域おこし協力隊が担っており、継続性に不安があるとも聞いた。これまでの成果として事業者登録数 157 社、働きたい人延べ 468 人で仕事の創出 882 件の実績であった。 本市においても働きたいと思っている市民の方々が自分に合った仕事で活用できる仕組み作りのための環境整備は喫緊の課題である。 ②老朽危険家屋等除却促進事業（空き家対策） 平成 25 年度より老朽危険空家の除去に取り組まれているので、現在では豊前市においては申請件数が減少し、老朽危険空家が少なくなっていることは見習うべきところである。現在、本市においては申請件数が増加傾向であるので今後しっかりと取り組み、老朽家屋の除去を適正に行うための制度設計が重要であると感じた。

日 時	2025 年 5 月 20 日（火） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分
視 察 先	熊本県玉名市
調査項目	「集落における無意識の『えづけ』を止めてわずか 1 年で被害ゼロを実現」について
調査内容	玉名市は人口約 6 万人、市域面積約 152 km²で熊本県北部の中心的な都市である。2005 年に周辺の 1 市 3 町が合併し現在の市制となっている。 果樹、特に中山間地域でのみかんの栽培が盛んで、近年ではミニトマトの一大産地ともなっていた。 鳥獣被害として、中山間地域におけるイノシシによる水稻及び果樹の被害が大きく、天水・八嘉地区における果樹（特にみかん）の被害が甚大であった。 対策として、平成 21 年に玉名市鳥獣被害防止対策協議会を設立し、国・県及び市が実施する有害鳥獣対策施策について、地域の実態に即し、地域の自主性と創意工夫を活かしながら効果的な被害対策を推進している。
所 感	対策の基本として、「みんなで勉強」「環境整備」「追い払う」「柵で守る」「捕獲」のステップを地域全体で取り組むことによって、鳥獣被害を大幅に減少させたことが特徴的であった。 まず、対象となる鳥獣をイノシシに絞り、地域住民がその特性、習性を「勉強」し対策への共通認識を持つことが、効果的な鳥獣被害防止対策を展開するための素地を醸成する。その上で具体的な対策を展開することが肝要である。 当市の取り組みは、イノシシを対象としており、本市で問題となっているシカやサルによる被害対策に直接的に用いることは難しいが、このステップを踏んで全体で取り組む対策の展開方法としては有用であると考える。 ただ、対策の成果と検証については、「被害ゼロ」の数的な定義がなく、農作物被害の減少や地域住民の「イノシシは見なくなった」との意見によるもので、客観性に乏しい部分を感じた。生息数を含めて実数の把握は困難な野生鳥獣を対象とした対策の検討は非常に難しいとも感じる場所であった。

日 時	2025 年 5 月 21 日（水） 午前 9 時 30 分～午前 11 時 00 分
視 察 先	福岡県太宰府市
調査項目	「歴史的資源を活用した観光まちづくり」について
調査内容	①ファイナンススキームと民間連携について ②地域経済と住民への波及効果について ③文化資源の保全と活用のバランスについて ④今後の展望と他地域への展開の可能性について
所 感	太宰府観光としては「国際観光都市」を目指し、年間観光入込客数 1,000 万人達成を目指していく中で 881 万人まで来ている。 そのような中で観光の現状としては滞在時間、消費単価が低く、観光客数の多さに比べて経済効果が低く課題と考えられている。 また、課題でもあるオーバーツーリズム対策として「歴史と文化の環境税（駐車場税）」の導入を活用している。 更にオーバーツーリズムの未然防止策・制御による持続可能な観光の促進への事業費補助等を行っている。 その他としては太宰府古民家宿泊事業（古民家リノベーションプロジェクト）による新たな魅力の創出での体験コンテンツの提供等を行っている。 更に太宰府コンシェルジュの設置、観光マナー啓発ツールの作成、住民向けツーリズム対策なども行っている。 また、歴史的風致維持向上計画や文化財保存活用計画との関わりなども推し進めており、建造物の調査・修繕（街並み環境整備）、史跡整備、文化遺産、市民遺産も推進している。 最後に「継承」掲げ、文化財以外にも地域にとって大切なものがあり、それが大事だと、市民が認定する制度、それを物語る「ストーリー」、証拠となる「モノ、コト」そして人々が活動をもとに市民会議「景観・市民遺産会議」での認定などをおこなう事で太宰府自体価値観を高めている。 豊岡市においても観光推進を図る上でも対策及び整備の必要性を考える機会とともに大変有意義な視察であった。